

西建協だより

345号

2023年4月



HPアドレス

「西建協だより」では、管内の様々な行政機関の方々から機会あるごとに寄稿をいただいております。このたび、西多摩建設事務所、補修課長 野口裕司様より西多摩管内の道路橋梁維持について貴重なご意見を頂きましたので掲載を致します。

西多摩管内の道路橋梁維持について

西多摩建設事務所 補修課 課長 野口裕司

西多摩建設事務所は、青梅市・福生市・羽村市・あきる野市・瑞穂町・日の出町・奥多摩町・檜原村の4市3町1村にまたがる区域を管轄しており、当該区域内の一般国道（指定区間外）2路線、主要地方道13路線、一般都道30路線の計45路線（総延長約389km）の維持管理をしております。管内道路の特徴としては、河川（特に渓谷）を渡る橋梁と山間部のトンネルが多く、その数は橋梁304橋、横断歩道橋23橋、人道橋35橋、トンネル40箇所にのびます。

補修課及び管理工区では、これらの道路・施設を常に良好な状態に保持し安全で快適な交通環境を確保するために、日常的な巡回監視を行い不具合箇所の早期発見や緊急措置を講ずると共に、次のとおり計画的な対策を行っています。

【道路橋梁維持】

管内を6区域に分け、道路の巡回点検と維持補修を行っています。また、落石処理や冬の除雪、路面凍結防止、トンネル内のつらら落とし等、管内特有な作業も行っています。

管内の橋梁の中には、交通量の増大や車両大型化の影響によって劣化が進んでいるものや、要求性能が現行基準等に適合しなくなったものも含まれており、戦略的な予防保全型管理を推進しています。

管内の道路は、圏央道の開通等により交通量が増大しており、砕石工場や土砂受入施設も多いことから路面損傷が目立っています。こうした中、路面補修を行う際には、現状回復に加えて、歩道の幅や段差・勾配改善、低騒音舗装の採用など沿道環境の改善にも努めています。また、トンネル・掘削・地下歩道・擁壁等の各種施設についても予防保全型管理を推進しています。

【道路災害防除】

山岳道路の斜面については、5年毎の点検調査に加えて職員による日常パトロール等により常に安全管理を行っており、点検結果に応じた工法（落石防止網、落石防止柵、法枠、アンカー工、モルタル吹付、擁壁工等）で災害防除事業を実施しています。

【交通安全施設整備】

交通事故防止や交通需要の変化等に応じて、区画線や防護柵の整備、架空線地中化事業等を実施し、快適な交通の流れを確保しています。

これらの取組は言うまでもなく西多摩建設事務所単独で行えるものではなく、西多摩建設業協会の皆様をはじめとする協力会社様の尽力無くしては到底成しえないものです。また土地柄、台風や集中豪雨による災害発生時の対応や、冬季降雪時の除雪作業等、即時緊急的な対応が求められる事態も非常に多く、地域に根差した活動を続けている企業との繋がりは最重要事項であると認識しております。

皆様とは、これからも強力かつ良好なパートナーシップ関係を継続し、地域社会の生活を守っていきたくと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

優良工事表彰の受賞にあたり

昭和建設株式会社 岡部治正

この度、西多摩建設事務所発注の路面補修工事（31西の16・歩道改善）で令和4年度優良工事表彰の受賞を賜り、先ずは監督官庁及び近隣住民の皆様方に感謝申し上げます。

当工事は国道四一一号青梅街道の青梅市裏宿町地内において歩道の拡幅及び車道の打換を行う工事でした。以下に現場施工時に苦心した点を述べていただきます。事前測量を行ったところ、当初予定した一般的な縦横断計画では民地境界部の高さが高くなり過ぎ、排水処理が出来ない家屋が多数生じてしまったため、左右で横断勾配を変化させて対応する事としました。また、歩道部分の埋設型柵を用いた現場打ち側溝蓋掛では高さの変化に対応しづらく、工期を遵守出来ない事が判明したため、管理業務受託者及び監督員と対応を協議し、工場製品を使用した蓋掛けとし、暗渠化する事で承諾を頂き対処しました。民地の排水を重視した縦断計画の結果、新設車道計画高が既設車道よりも最大で17cm低くなる箇所が生じてしまうことから、従来の片車線ごとに日々打換えの舗装工法では段差すりつけが不可能となるため、費用効果を鑑み、大型切削機を使用し、即日で左右両面を施工する工法を採り、中央部の段差を生じさせないように施工しました。ただ、この様な縦断計画を立てても工事中間点付近の二軒の民地については道路側が高くなり排水処理が不能となりかねませんでした。この部分については所有者と協議を重ね、境界部分の駐車場及びプロック塀等を再整備し、雨水排水柵を設置する事で水溜りを生じさせる事なく、また住民の満足する仕上りで施工する事が出来ました。



自分も齢六十を超え、そろそろリタイアの時期となりますが、その経験の中でも一、二を争う難工事でしたが、同僚や上司の理解と協力の下何とか無事工期内に完工する事ができました。また、無理な発注でも納期を守って頂いた関連会社の皆様にも改めて感謝申し上げます。

当協会員、株式会社酒井組、代表取締役須田晶子氏より、「二俣尾マルシェ」開催に寄せて記事ご寄稿頂きましたので掲載いたします。

【駐車場で逢いましょう】

「二俣尾マルシェ」開催に寄せて

株式会社 酒井組 代表取締役 須田 晶子

去る3月12日・4月9日、株式会社酒井組の旧駐車場にて「駐車場逢いましょう」二俣尾マルシェが開催されました。主催は酒井組代表を中心に、二俣尾3丁目自治会様にも協力をいただき毎月一回、第二週目の日曜日を開催日とし3月から始まりました。

近年、新型コロナウィルス等で外出できなかった高齢者の方、また他地区から引越してきた方の中にも地域とつながりを持ちたいという気持ちはあつた方も少なくありません。地域防犯や災害があつた際に人とのつながりを作つて少しでもみんなが助け合えるコミュニティを作つておきたい！というところからこのマルシェの企画が始まりました。

第一回は地元のお囃子の方々におブニングを飾っていただき、延べ500人ほどのお客様に会場に来ていただきました。キッチンカーでの食事をはじめ、地元の方が手作りするアクセサリーや手芸品を販売しました。また、子供たちは駄菓子ゲームやスーパードールすくいなどを楽しんでいました。当社からは、子供たちが重機と写真を撮影できるように一番小さい重機を展示したところ、目をキラキラさせた子供たちがたくさん来てくれました。

第二回におきましては、地元の消防団が新しい消防車を展示し、地域の方々や子供たちにもっと防災の意識を高めてほしいことから参加をしてくれました。子供たちだけでなく、大人の方も消防車に興味を持ち、話を聞く方が多く見受けられました。

地域の方々の反響もかなりあり、「こうして集まる機会やきっかけを作ってくれてありがとう。」「月に1回楽しみが出来て本当に良かった！」など、このようなお言葉をいただけただけで本当に嬉しい限りです。（2面に続く）

